

## 2020 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 12 月 17 日作成)

小委員会名	極端な高温化適応のための都市環境気候図検討 小委員会	主 査 名：竹林英樹 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (都市環境・都市設備運営委員会)	委員長名：持田灯 主 査 名：宮崎ひろ志
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2021 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>本小委員会では、街路や広場などの街区レベルの都市環境気候図の整備を主眼に置いて、整備方法やそれに基づく指針の作成方法、などについて議論を行う。</p> <p>初年度：街区レベルの都市環境気候図の整備状況について情報収集を行い、整備方法の詳細について議論を行う。</p> <p>2 年度：街区レベルの都市環境気候図の有効な活用方法について情報収集を行い、それに基づく指針の作成方法について議論を行う。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：竹林英樹 (神戸大学) 幹事：十二村佳樹 (岐阜大学) 委員：岩井一博 (信州大学)、橋高康介 (神戸大学)、清田誠良、田中貴宏 (広島大学)、鍋島美奈子 (大阪市立大学)、鳴海大典 (横浜国立大学)、増田幸宏 (芝浦工業大学)、松尾薫 (大阪府立大学)、宮崎ひろ志 (関西大学)、森山正和 (神戸大学)、依田浩敏 (近畿大学)、渡邊浩文 (東北工業大学)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2020 年度予算	120000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="https://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/f-a00/fi00-12/fi10-12.html">https://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/f-a00/fi00-12/fi10-12.html</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	書籍刊行に向けて作業中
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	<del>1. (名称)</del> <span style="float: right;">参加者数 <del>      </del> 名</span> <del>      (資料名)</del>
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 書籍刊行に向けて検討，作業を進めた。 2. 独日都市気候会議の開催に向けて情報交換を行った。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 2020 年 9 月ベルリンでの開催が延期された独日都市気候会議を再調整する。 2. 書籍刊行に向けて必要に応じて協力体制の再整備を検討する。

## 2020 年度 小委員会活動 自己評価

### (最終年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>B</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>前小委員会からの活動の継続として、書籍刊行の検討と作業を行った。執筆はほぼ完了し、査読が完了次第、校正などの作業に進む段階である。</p> <p>2018年度に委員の一部がドイツを訪問して実施した専門家とのワークショップ、シュツットガルト大学のバウミュラー教授を神戸に招聘して神戸市職員とともに開催したワークショップの内容を報告し、行政との具体的な連携の可能性を議論した。</p> <p>2019年7月に米国ローレンスバークレー研究所で開催されたクールビルディングワークショップに竹林主査、鳴海委員が参加し、小委員会にて暑さ対策等に関するアメリカ、イタリア、インドなどの研究の状況を共有した。</p> <p>2019年12月に竹林主査、森山委員、橘高委員が、神戸市の職員との異常高温対策ワークショップに参加し、具体的な施策への反映に向けた議論を行った。</p> <p>2020年1月にチリの Catholic University of the North の Prof. PALME Massimo にチリと日本の海岸都市におけるヒートアイランド強度の評価と対策のテーマで講演頂き、都市気候解析の方法などについて議論を行った。</p> <p>2020年度は遠隔での小委員会の開催となったが、次年度以降の活動の可能性として、都市環境気候図の LCZ (Local Climate Zone) 類型の視点からの再評価、ビッグデータを用いた都市環境気候図の作成、都市環境気候図を用いた暑さ対策実践の行政との連携の可能性、大阪万博会場の都市環境気候図を用いた暑さ対策の提案、などの議論が行われた。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。